

2015 年度前期全国統一タイトル

「医療論題」

*What policy should the Japanese Government adopt concerning
Medical issues?*

【メイントピック】

臓器移植 Organ Transplant

安楽死 Euthanasia

【サブトピック】

遺伝子検査 Genetic Test

【選定理由】

医療問題になった大きな理由は、この論題が倫理観の衝突を生み出せる特徴を持っていて、かつディスカッションの醍醐味ともいえるコンパリソンも盛り上がるのが期待できる論題であるという判断による。

近年の医学の進歩は目覚ましい。再生医療技術（iPS 細胞，ES 細胞）やそれに伴う臓器移植技術、ゲノム治療などに代表されるように、以前では人間には不可能であった技術が次々と可能になってきている。その進化し続ける技術による恩恵を無批判に次々と与えることは本当に良いことなのだろうか。このような問いに対しての答えは各人によって異なるものであり、各々の価値観に基づいた意見をテーブルに投げかけることで、

熱い議論がなされることが期待できる。

また医療に関する問題は、人間の生死に触れずして語ることはほぼ不可能であり、人の生き方死に方において何が理想であるかを考察する良い機会となるであろう。そしてここにおいても意見の対立が生まれるだろうことは予想でき、アーギュメントの形であれコンパリソンのロジックの形であれ、議論の深度を上げる要素となることが予想される。

以上のことを考慮すると、医療論題は2者の対立構造や論点の豊富さなどの要請には応えられていて、かつ進化し続ける医学が抱える時事問題についても扱うことができる。更には **Problem Solvency Format** とそれ以外の **Format** 両方において議論を進めることができるという利点を持つと判断できたことから、この論題にさせていただいた。

【トピックに関して】

今回は中絶をメイントピックから外させていただいた。それは2013年度前期タイトルが医療論題であったことが大きな理由である。現2年生が一度体験しているタイトルであり、そのことによって現1年生との間に不公平が生じてしまうことが懸念された。また2年前とは新たなトピック群を設定することでディスカッサントの皆さんにより新鮮な形で議論をしていただきたいと考えた。

【タイトルに関する要請事項】

このタイトルは過去に幾度となく使われてきたタイトルであり、継承されたアイデアなどが流布しやすいため、アイデアや議論そのものが形骸化するのではないかとこのタイトル会議中に抱かれたことは記しておかねばならない。後にも記述するが、我々は既存のアイデアに限らず、多様なアイデアが生まれるディスカッションを要請しており、そのためには十分なりサーチと、それに基づく主張が必要であると考え。そもそもタイトルに関するある程度の知識を得ようとする意識と行動が必要であるということは我々3連盟の共通見解であることは言うまでもない。単純ではない論題であるだけに、各々リサーチやアイデアを練る作業は軽んずることなく取り組んでいただきたい。

臓器移植 Organ Transplant

Cause : The Japanese Government does not force Japanese nations to give their organs when they become brain-deads.

Problem : The number of organs is not enough.

Harm : Japanese nations suffer mentally.

Direction : The Japanese Government gets enough stocks of organs.

Mandate : The Japanese Government forces Japanese nations to give their organs without their will when they are brain-deads.

Advantage : Japanese nations do not suffer mentally.

機能障害に陥った臓器の代わりに他の人間から臓器を移植する、この行為が現実の物となってから 50 年以上が経った。以来、移植可能な臓器の種類は増加し、臓器移植による延命も夢ではない時代となった。これは医学の進歩の象徴と言ってよいだろう。

97 年に臓器移植法が制定されて、臓器移植を前提とする場合に限って脳死を人の死と認めた。その後 2010 年の法改正により規定が緩和され、脳死患者の意思が確認できない場合は家族の同意によって臓器提供が認められるようになり、改正前よりも実施数が 5 倍以上増えた。

このように臓器提供数、実施数ともに増加傾向にあるが、移植希望の数には到底足りておらず今も移植臓器を待ちわびている患者は多いことは現状の課題である。彼らを救うためにはどうすればよいのだろうか。またそのためには何でもしてよいのだろうか。臓器移植の関係者として、レシピエントだけではなく、ドナーの側にも焦点を当てなければならず、「何が人の死とよばれるのか」「家族の同意で本当に臓器を提供してもよいのだろうか」などといった倫理的な問題についてもこのトピックを通じて議論できるであろう。

また、再生医療技術によって臓器移植用にクローン人間やクローン臓器と呼ばれるものも当たり前に作られ、臓器移植によって救われる患者は飛躍的に増える時代が来るかもしれない。それを利用することによって起こる倫理的な問題も同様に議論できるであろう。

このように臓器移植と一口に言っても、関連する事柄は山ほどあり、これからも増え続けるだろう。十分なりサーチをすることで今現在の臓器移植の問題を学び、議論の種として使うという姿勢を持ち続けてほしい。

安楽死 Euthanasia

Cause: The Japanese Government does not admit active euthanasia.

Problem: Doctors do not carry out active euthanasia to patients.

Harm: Patients suffer mentally.

Direction: The Japanese Government should help patients.

Mandate: The Japanese Government makes a new law.

Advantage: Patients will not suffer mentally.

日本には安楽死に関する法律はなく、現在、患者の命を代償に苦しみを取り除くことの是非が問われている。積極的安楽死や消極的安楽死と呼ばれる人の死を、医療と扱うか殺人と扱うかどうかは難解な問いである。医療と称して人の命を奪うことは倫理的に許されるのか、そして、殺人との線引きはなされるのか。個人の意見がぶつかり合うことが期待されるトピックだろう。

安楽死には、安楽死を望んでも受けられない患者の精神的苦痛、そして、患者の死という論点の双方が予想される。医療の核である人の死に関して、意志の有無に基づいて死は深刻であると立論する方法が形骸化している中、死に関して自分の価値観を持ち、新たな方法で死が深刻であることを立論してほしい。After Plan Adoption では人の命の尊重と死を選択する個人の自由のどちらに重点の置くかといった議論が期待される。

遺伝子検査 Genetic Test

遺伝子検査とは、人間の遺伝子情報を解読することによって将来罹り得る病気が分かってしまう発症前診断のことである。この検査結果により、社会福祉や保険機関などを通じた個人に対する社会からの態度は変化してしまうだろう。また、遺伝子情報の内容は一生変わることはなく、個人にとっての究極な個人情報である。日本政府としてこのような個人情報をどのように取り扱うべきであるかを考察するに際し、倫理観あるいは効率を重要視する価値観を考慮せざるを得ないであろう。

このトピックでは、あえてモデルオピニオンは提示しない。なぜならば議論の進行方法やリサーチに多くの時間を割いてほしいと考えたからである。特にリサーチに関しては、このトピックにおける立論、反論に際し、避けては通れないものであると考える。今まで PDD 界ではエビデンスを中心とする議論は「水掛け論」として捉えられていた。しかしエビデンスを中心とする議論は、難易度は非常に上がるものの、議論の内容の実社会における確証性は格段と上がる。このトピックを通じて、PDD そのものを現実的な議論に近づけていくことで見えてくる魅力や、PDD は論理ゲームという側面のみではなく実学的要素を含んだ側面も存在することに気づく機会を設けたいと考えている。普段 PDD が形骸化していることが原因で PDD の魅力を理解できない者などは、このトピックを積極的に選択してもらうことによって、PDD の魅力を感じてもらえるようになることを願っている。

【PDD 界の今後の方針】

今回タイトル会議において、タイトル決定のための議論だけではなく、今後どのような PDD 界を創造していくべきかという議論も 3 連盟間でなされた。この議論において、大きく 2 つの結論が導き出された。

- 1 競技性の側面を持ちつつも、英語能力促進のための試みをすること。
- 2 我々の行う議論の結論に社会的な意味を持たせるために、質の高い結論を生める環境を整えること。

1 に関して、我々は PDD を行う中でランクの獲得という大きな目標を掲げることに視野を向けるあまり、日本人に対して伝わる英語の追究に捕われている傾向がある。しかしながら、我々が使用する英語は実社会において有効なものなのであろうか。我々は PDD に専念する者であるのと同時に、**English Speaking Society** に所属する者である。英語能力の促進は、競技性を追求することと同時に両立すべき事柄であると各連盟間において結論づけられた。そのため各連盟は、我々の使用する英語とはどのようなものであるべきかを考え直す機会を設ける。

2 に関して、我々は PDD を行うなかで、我々が導き出す結論に関して、社会的にどのような意味を持つのか考えたことがあるであらうか。PDD を行う中で得られる技術を習得しながら、同時に現実味があり有効的だと社会的に評価されるような結論を出すことは、我々が PDD を行い続けるうえで PDD そのものの質をより高度に変化させる手段の一つであると考えた。我々の導き出す結論が実社会において有効的であると評価されるために、まず結論の質を強化するというプロセスが必要である。最終的に実社会において我々の結論が有効的に評価されるためにも、結論の質の向上がなされるための環境づくりを、各連盟が努力することをここに記す。

【Regulations】

1. 日本政府による政策決定の範疇内であるものに限定する。
2. 日本政府が金を支出することのみで解決するマンデートは禁止とする。ただしマンデートを執行する際の経費に関しては例外である。
3. 他のタイトル（刑事問題、労働問題、軍事問題、環境問題等）のメイントピックと重複するトピックは禁止とする。
4. 宗教に関わるものは禁止とする。
5. エビデンスのソースを明確にすること。

※タイトルに關しまして何か質問等ございましたら以下の連絡先へお願い致します。

・ Japan Intercollegiate Discussion Meeting 連盟長 豎石祐希
13ba109b@rikkyo.ac.jp

・ Kansai Discussion League 連盟長 河崎みのり
mii.mii.468km@gmail.com

・ Tokyo Discussion Federation 連盟長 馬場富士
suzukanokei@gmail.com